

民報 ゆうばり

「まちづくりに必要な予算措置を！」

「財政破綻の歴史的検証と責任の分担を！」

市民福祉や暮らしをしっかりと守れ！ くまがい市議、質問に立つ

13日開かれた第4回定例市議会は、会期を21日までとし、最初に夕張市財政再生計画の変更に ついての議案が論議 されました。

改めて国・道の責任を 指摘しつつ賛成を表明

意見表明に立った 日本共産党のくまが い市議は「夕張の財 政破綻は、夕張市だ けの責任ではなく、 国や道、北炭の責任、 銀行の貸し手責任な



ども棚上げにされて いるのは明白です。 そのことを改めて指 摘し、現在あらゆる ところでおざなりに されている市民福祉 や、暮らしをしっか りと守るための次年 度の予算措置を要求 する意見を付したう えで、この議案に賛 成いたします」と条 件付きの態度を表明 しました。

市立診療所に 眼科専門医を

一般質問で、くま がい市議は眼科専門

療がなくなくなり、診察 を受ける方は栗山、 岩見沢、札幌等に出 かけている。交通費 の負担や高齢者の身 体的負担も大きい。 市として予算措置を 招へいすべきではない か」と質問しました。

これに対し市長は、 「7月以降、眼科専 門医の診察がなくな り、近隣へ通院して いる方がおられるこ とは承知しています。 今後は、専門医とか かりつけ医との連携 で負担を減らしてい きたい」との答弁に とどまりました。

就学援助認定枠の 拡大を！

二点目の質問は就 学援助について、夕 張市の実態を他市と 比較し、現状認識を いただきました。 「全国最低の住民 サービス、全国最高

の住民負担』の国か らの掛け声のもと、 財政破綻以降、就学 援助認定は、生活保 護家庭の1・3倍から 1・1倍の収入まで 引き下げられた。 また、全道平均では 21・6%が就学援助 をうけている。夕張 は17・8%にとどま り、4%も低い」と 実態を明らかにし、 1・3倍への拡大を 求めました。しかし、 市理事者からは「現 状では困難である」と 答弁がありました。

空き校舎の 有効活用を！

小中学校の統合に よる空き校舎につい て「校舎の1校まる ごとでは維持費をま かなえない。共同で 借りることや、一部 屋だけ間借りするこ とはできないのか？ また、今後市民が使 いたいと思ったとき、 他地域からの申し込 みと併列ではなく優先 して貸してもらえ ないか？」などの有

「まちづくりに 必要な予算措置を！」

効活用について質問 をしました。 鈴木市長はすでに 利用が始まった幌南 小の事例を上げなが ら「幌南中と緑小校 舎について申請が出 ている。市民のみな さんからの要望にも 対応したい」と答 えてくれました。

「まちづくりマ スタープラン策定にか かわって、市民から は『予算がつけられ ない状況の中で、あ のプランがほんとう に実現できるのか』 という声が上がって いる。先日の常任委 員会の中で『予算措 置がされるものでは なく、まちづくりの 計画を市民と情報共 有するものだ』とい う答弁があった。高 齢化の進むこの夕張 市で、どのようなま ちづくりを進めよう としているのか」と 質問しました。 これに対し答弁に

市民が知る権利 議会の権能を 保障する予算を

くまがい議員は再 質問で「議会全体と しても予算要望して いるが、たとえば、 市民から要望が上が っている議会傍聴席 への階段の手すりの 設置や、議会事務局 職員の増員など、具 体的なまちづくりが 必要ではないのか」 「階段の手すりをつ けないことは、高齢 者が市議会の様子を 知る権利、市庁舎を 使用する権利を侵害 している。議会事務 局の職員欠員は、行 政と対等な立場で市 政にかかわる議会の 権能を侵すものだ」と述べ、必要な予算 を確保するべきで、 それを削ってまで財 政再生計画の返済に 回してはならないと 強調しました。

「市民ネット」学習会を開く!

「環境基本条例」を考へる
まちづくりから

12月10日「夕張メロンと夕張川の水を守る市民ネットワー

ク」は、紅葉山新生クラブにおいて学習会を開きました。

産業廃棄物処理場建設反対運動で大きな成果をあげた同会はその後、夕張の環境をテーマに活動を続け、夕張の自然を生かした「まちづくり」を学ぼうと企画しました。

学習会の講師にニセコ町長の片山健也さんを迎え、夕張の自然環境を保全するための「条例作り」をどのようにするかニセコ町の経験を聞きました。

講師の片山町長は条例をつくるにあたり、「まず街づくりのテーマを住民の合意のもとに進めなければならぬ。住むことが誇りに思えるま

ちづくり」と言う観点が大切です」と述べました。

徹底した民主主義の
実践がポイント!

そのために「率直な意見交換を保障し、それに必要な情報を全て公開し、納得を得られる条件をそろえなければならぬ」と徹底した民主主義の実践を強調しました。

それは、夕張が財政破綻から学んだ教訓として、情報公開の欠如があったこと

を見事に言い当てる内容となりました。



(上)講師の片山ニセコ町長

(左)70名の参加者で熱気あふれる会場

に於いて「環境基本条例をつくることで堆肥センターを事業化し、生ごみのほとんどを資源化して販売している」と実例をあげて話しました。



「コールポピー」の皆さん、
「クリスマス会」で、
患者さんを励ます!



12月13日、夕張市内のコーラスサークル「コールポピー」の皆さんは、栗山日赤病院の療養病棟のクリスマス会に参加し、病棟の皆さんを励ました。

コールポピーさんの療養病棟慰問は、今年で7年目となり、今回は、「童謡メドレー」や「川の流れのように」「上を向いて歩こう」などを歌いました。「シャボン玉」の曲では、本当にシャボン玉を飛ばし、患者の皆さんと共に楽しみました。



日本共産党中央委員
道政策委員 長

「元氣なわが町に」
「かけある記」

対談企画で鶴川農協・中奥武夫組合長さんと約一時間、TPPや農業・食料の今後について語り合いました。地域社会を守る大切さや、一部輸出大企業の利益追求ばかりを応援する今の政治のあり方にまで話が及び、初対面ながら最後には打ち解けた雰囲気でお話を終えました。「ほっかい新報」新年号に掲載予定です。

中奥さんが組合長になられた時期は、一九九三年に細川政権がコメの輸入を決めてから米価下落が進んでいた時期に重なります。農協では米・野菜・花き・肉牛などの複合経営を奨励し、農家も努力と苦労を重ね販売量も増えてきたところでした。このように輸入自由化の嵐とたたかってきた中奥さんだからこそ「TPPは絶対に反対だ」との言葉が重く響きます。

一昨年、むかわ町の森林組合を訪れたとき、やはり輸入によって木材価格が下落し、林業が低迷した歴史を聞きました。道内をまわると、政府の無策から間伐もされず荒れた山林が目立ちます。林業関係者からも「林業の二の舞にしないでくれ」と強いTPP反対の声を聞きます。これ以上「北の大地」を「北の荒れ地」にするわけにはいきません。

地域に根付いて「元氣なわが町に!」とがんばる生産者や地場産業を応援する政治が必要だと、あらためて強く感じました。「展望が見えれば後継者も増えてくるんだよ」と話した中奥さんの笑顔が、もともと道内に広がっていくように! 政治の転換へ、引き続きがんばります。